

献呈の辞

池田敬子先生は、今年度末すなわち平成二十九年三月末日をもって、お辞めになることになりました。先生は、京都府立大学から平成二十二年四月に大谷大学文学部教授としてご着任になり、平成二十六年四月に特別任用教授にられました。先生のご専門は、主著『軍記と室町物語』（清文堂出版株式会社、平成十三年十月）の書名の示す通り、『平家物語』を中心とする軍記物語の研究とその延長線にある室町物語（御伽草子）の研究とにあります。また『真名本曾我物語』1・2（平凡社東洋文庫、昭和六十二年）という共著もあり、さらに『平家物語』と『太平記』のことは「（國語と國文学」85・11、平成二十年十一月）といったご高論も多数です。

先生の中世文学のゼミでは、卒論指導に他のゼミ以上に熱心に取り組んでいらっしゃいました。考えさせ作業させ、また考えさせる。本来の指導とはどうあるべきかを改めて考えさせる、そんなご指導でした。研究と教育が教師の本分であり使命であるという先生の無言の信念が聞こえてくるような、誠実なまた熱い教師ぶりでもありました。先生の薫陶を受けた学生は熱心に勉強し、なかには大学院仏教文化専攻に進学した院生たちもいました。先生のご指導は仏教文化専攻の大学院生に対しても変わることなく、先生は非常に熱心にかつ根気強く院生の発表に耳を傾け発表の意図をお尋ねになり、また率直な意見や感想を述べていらっしゃいました。若い人を大事にしたいという先生の強い思いがひしひしと伝わりました。院生

たちの修士論文、博士論文にも先生のアドバイスが随分役に立ったはずです。

今後はすべての教職から、また市民講座の講師からも身をお引きになるおつもりと伺いました。寂しい限りですが、しばらくはゆっくりとお休み下さって長年のお疲れを癒して下さい。これまでの先生のご活躍に感謝し、謹んでこの一書を奉呈申し上げます。今後の先生のご健勝とますますのご発展とを心よりお祈り申し上げます。

本書が成るについては、大谷大学から格段の助成を頂きました。ここに誌して謝意を表します。

平成二十九年三月

大谷大学文藝學會

赤瀬知子